



## 2025 年 10 月 2 日 (木) 第 1 回例会

【対面式 ZOOM ハイブリッド例会】

### 会長時間



ロータリーは自己研鑽の場です。みなさんこんばんは。

いよいよ今日から、広島新世代ロータリークラブは公式な例会を開催し、正式に活動を開始します。この記念すべき第1回例会に、お忙しい中、土肥ガバナーにお越しいただいたことは、大変光栄であります。本当にありがとうございます。後ほど、会員の入会式を行いますが、その際、土肥ガバナーには皆さんにロータリーの「誇りのシンボル」と名札を手渡していただきますので、よろしくお願ひいたします。

まず最初に、今日発売の広島経済レポートに、広島新世代ロータリークラブ設立の記事が掲載されましたことをご報告します。

当クラブは設立方法や運営方法が既存クラブの多くと異なり、また目指すところも異なるので、一部の現役ロータリアンから反感を持たれることもありましたが、私たちは決して既存クラブを否定しているのではないわけで、どうか皆さん、堂々と胸を張って活動していきましょう。

さて、今日は、タップリお時間をいただいたので少し長いかもしれません、まずは、先ほどご唱和いただいた「ロータリーソング」と「四つのテスト」、についてお話しします。

当クラブでは、毎月第1例会で、国歌斉唱と「四つのテスト」の唱和を行います。また、毎回、「ロータリーソング」の斉唱を行います。

まず、毎例会で斉唱する「ロータリーソング」ですが、これは世界最初のロータリークラブであるシカゴロータリークラブで始まりました。シカゴロータリークラブでは 1905 年に創立してすぐに、親睦だけいいじゃないかという会員と、もっと奉仕をすべきだという会員が衝突して、とても雰囲気が悪くなつたことがありました。そんな時に、ハリー・ラグルスという会員が、みんなで歌うことを提唱したのが始まりです。この後アメリカのロータリークラブで慣習化され、日本でも慣習となり、最初は英語の曲だけでしたが、戦前の 1935 年にはロータリーソングが公募されて今に至ります。歌詞の内容が古めかしいのは昔にできた曲だからです。

そんなわけで、ロータリークラブの例会で歌を唱和するのは、雰囲気を良くするためです。是非皆さんも、どうか笑顔で大きな声で歌っていただけたらと思います。ロータリーソングの楽譜はお配りしませんが、そのうち自然と覚えますので大丈夫です。当クラブでは当分「我等の生業」を歌いますので、まずこの曲から覚えていただければと思います。

さて、次に「四つのテスト」についてお話しします。

これを作ったのは、シカゴロータリークラブの会員であった、ハーバート・ティラーという人です。彼がシカゴロータリークラブの会員になった時、彼は経営者として成功していましたが、シカゴにある倒産寸

前のアルミ調理器具会社の再建を依頼されます。僕も一度アメリカで会社再建をやったことがあります。こういう仕事は苦しいですがとても面白いです。それでかどうかはわかりませんが、彼は自己資金も投入してこの再建の仕事を引き受けます。1930年代初めで、ちょうど世界大恐慌まっただ中でした。社員は夢を持てず意気消沈していましたので、まず彼らを元気にするために、仕事をする上で倫理的な拠り所となるような指針を作成することにしました。このようにして1932年にできたのが「四つのテスト」でした。

「四つのテスト」はこの会社の再建過程で意思決定の指針となりました。たとえば広告では、「最高の」や「最高級の」という誇張した表現が削られ、事実に基づいた説明文が載せられました。競合他社の欠点を指摘する文面も取り除かれました。こうして、「四つのテスト」はあらゆる面において意思決定の指針となり、その結果、従業員、顧客の間に、会社に対する信頼が生まれ、同社は見事再建されたのです。

1929年から始まった世界大恐慌で、ロータリアンの経営する会社の多くは倒産しなかったと言われています。それはもしかしたら、この「四つのテスト」を大切にし、そしてこれを経営の中で実践したからではないかと思います。

会社にも社是があります。社是とか、この四つのテストとか、こういったものは大変わかりやすく書かれていて、すぐに理解できると思います。しかし、最も大事なのは、これを実践することです。以前お話ししたように、2007年に起こったミートホープの食品偽装。ミートホープの社長はロータリアンでした。彼は四つのテストを理解していたはずです。だから真実ではないことをするはずはないのですが、やってしまった。それはなぜかというと、理解すると実践するは別物だからです。実践は難しいのです。

そこで皆さん、今日は後ほど皆さんに額入りの「四つのテスト」を差し上げます。これをいつも目に付くところにおいて、毎日自問自答して、どうか実践できるようになってください。ロータリーの重要な自己教育です。ただ、実際の世の中はいつも真実とばかりは行かないというのも真実です。たとえば、最近では医者が本人にガンの告知をするようになりましたが、少し前までは医者は家族と一緒にになって嘘をついていました。このあたりをどう考えればいいのか。これはまた別の機会にお話しします。

今日は、もう少しだけ「四つのテスト」の歴史を紹介しておきます。国際ロータリーは太平洋戦争中の1943年に、ハーバート・ティラーが作ったこの「四つのテスト」を正式に採用しました。このときから、「四つのテスト」はロータリアンの共通用語となりました。そして、戦後の1954年には、ハーバート・ティラーは「四つのテスト」の版権を国際ロータリーに寄贈し、このときから「四つのテスト」は名実ともにロータリアンの倫理的基準となっています。

さて、以上、「ロータリーソング」と「四つのテスト」についてお話ししましたが、ロータリーの事をこれから学ばれる皆さんのために、もう少しロータリーの慣習の話をします。

模擬例会で、ロータリーには「スマイルボックス」という寄付金箱があるというお話をしました。この話をしましょう。

これは、会員がうれしいことやユーモアのある出来事を紹介して自由意志で寄付をするためのものです。それに加えて、当クラブでは、運営内規で、徽章を忘れたり慣用語の読み方を間違えたときは1000円のご寄付をお願いしています。

「スマイルボックス」と呼ばれたり、「ニコニコ箱」と呼ばれたりしていて、決まった名称はありませんが、当クラブでは「スマイルボックス」と呼ぶことにしています。これは実は日本だけの風習です。スマイルボックスの常設が始まったのは、1936年、まず大阪で、そして東京で始まりました。戦争前のことです。

このスマイルボックスは寄付金を集めることが目的です。ここへの寄付金はクラブ運営費とは完全に分けて管理され、純粋に対外的奉仕活動にだけ使用されます。

スマイルボックスへの寄付は自由意志に基づく寄付です。理由は何でもいいので、日常のちょっとしたうれしい話などがあった時は、是非みんなでシェアしましょう。金額も最低 1000 円から自由です。私は、第 2 回例会で、今日の第 1 回例会が無事開催されたことを祝って、スマイルボックスに 1000 円寄付をさせていただきますので、実例として皆さん、参考になさってください。

最後に、今日、掲揚している国旗とクラブ旗について、少しそのルールを紹介します。

当クラブは、外務省のプロトコルを採用します。プロトコルというのは、外務省が決めている「国際礼儀」で、通称「プロトコル」と呼ばれています。これは、国の大小に関係なく平等に扱うことを目的に、国旗の順番や服装などを定めたものです。たとえば、二国間の催しで両国の国旗を掲揚する場合には向かって右が日の丸、向かって左が外国国旗です。たとえば、モンゴルからお客様をお迎えする場合、向かって右に日の丸、向かって左にモンゴル国旗を掲揚します。外国のお客さまをお迎えする機会もありますから、覚える必要はありませんが是非気をつけていただきたいと思います。

以上で今日の会長時間を終わります。

## 例会次第

- ・開会点鐘
- ・ロータリーソングの唱和 「我等の生業」
- ・来訪ロータリアン及び来賓者の紹介
  - 土肥慎二郎ガバナー
  - 櫻河内 章悟さん（入会予定者）
- ・会長時間
- ・幹事報告
  - ・次回例会：10月16日木曜日午後6時からおりづるタワーにて開催。ZOOM 参加の場合は既にお知らせしている ID で参加可能。
    - ・10月19日は東広島市にて当地区の地区大会が開催されます。ご出席される方は、当日会場で当クラブ担当者が待っていますので、そちらにお越しください。
    - ・来年6月13日から台北にてロータリー国際大会が開催されます。今のところ、当クラブからは、諏訪会長、福本幹事、伊藤副会長と奥様が出席予定です。近日中にご案内しますので、もし参加してみようと思われる方がいらっしゃいましたら、是非ご参加ください。
  - ・例会プログラム
    - 入会式
  - ・閉会点鐘

## 出席報告

本日の例会 参加会員数： 19名（うちオンライン参加者 0名）【出席率 95%】

来賓・来客： 2名

## 委員会報告

本日はありません。

## プログラム

入会式。土肥ガバナーから誇りのシンボルとクラブ名札、ガバナーからいただいた今年度地区バッジ、「今日からロータリアン」を贈呈していただき、一人づつ所信表明をしました。続いて、土肥ガバナーに卓話ををしていただきました。



